

小学校6年間を通した系統的な学習リーダーの育成

苫前町立古丹別小学校 学級数6 (校長 野口 修一)

□ 実践の概要

本校は、学校評価等から「学習への主体性」に課題が見られたことから、複式教育における学習指導の一つである「間接指導」において、児童が自ら学習を進めるための役割としての「学習リーダー」に着目し、学校全体で系統的に育成する取組を進めている。

1 実践の目的

複式・単式を問わず、全ての児童が自分の学習を見通し、必要に応じて選択・判断しながら学びを調整する力を育成するとともに、学習リーダーの系統的な育成に関する視点を全教職員で共有し、児童が協働的に学ぶ学習に取り組むことにより、複式教育における間接指導の質を高める。

2 実践内容

(1) 実施計画

令和5年度は、学習リーダーの役割の理解と進行表の整備、令和6年度は、教科を固定した上での学習リーダーの経験の蓄積、令和7年度は、「学習リーダー育成指標」を用いた学習活動など、小学校6年間を見通した系統的な育成へと発展させた。

(2) 取組の具体

- 各学年の発達段階に応じた育成指標を明示し、6年間を通じて系統的に学習リーダーを育成するために、「学習リーダー育成指標」を作成した。
- 授業の展開を掲示した上で、それに対応した「学習リーダー進行表」を作成し、例えば、低学年では、国語や算数の授業において主としてタイムキーパー等の役割への理解を図るなど、学習リーダーの進行場面を明確化した。
- 学習リーダーの担当教科は、児童アンケートをもとに可能な限り児童の希望に合わせて配置し、固定した。

	低学年	中学年	高学年
シナリオ	先生の指示に沿ってタイムキーパーの役割を果たすことができる。	先生の指示に従って、自分からシナリオを述べることができる。	授業の流れに沿ってシナリオを使いながら学習リーダーを中心に学習を進めることができる。
課題	先生と一緒に話し合い、課題を立てることができる。	先生が書いたシナリオに沿って、自分たちで課題を立てることができる。	問題や活動計画から、自分たちで課題を立てることができる。
実践	先生と一緒に話し合い、課題を立てることができる。	先生が書いたシナリオに沿って、自分たちで課題を立てることができる。	問題や活動計画から、自分たちで課題を立てることができる。

【学習リーダー育成指標】

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- 学習の見通しをもつことで、児童が自分たちで次の活動を考えたり、必要に応じて交流の時間をとったりするなど、主体的に学習に取り組むことができた。
- 課題解決に向かう方法を選んだり、友達に意見を聞いたりするなど、児童自ら選択・判断しようとする態度の育成を図ることができた。
- 成果の見取り方について課題が見られたことから、今後、多様な形態での見取りについて検討する必要がある。

(4) 改善後の取組

- 学習リーダーを形式的に取り入れるのではなく、自分たちで学習を進めるよさを実感させる指導を行う。
- 「主体的な学習」と「リーダー学習」の違いや効果的な学習リーダーの活用場面や教員の関わり方について教員研修を行う。

3 実践のポイント

- 授業展開の可視化と進行表の統一により、児童が学習を主体的に進められる環境を整えたこと
- 6年間を見通した「学習リーダー育成指標」の作成により、単式・複式問わず学年ごとの役割や育成段階を明確化したこと
- 間接指導の充実を図り、児童が主体的に学び、児童同士の対話を深めることができるよう、学習リーダーが中心となって学習を進めること